

経営比較分析表（令和2年度決算）

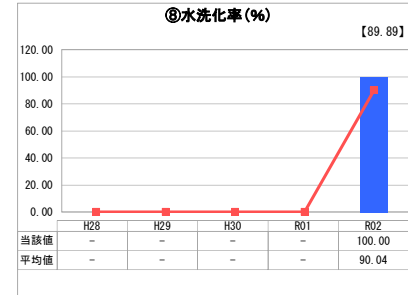
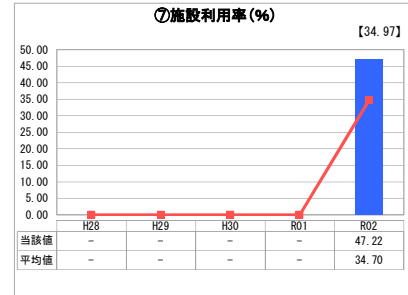
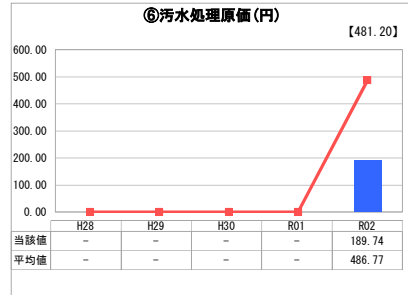
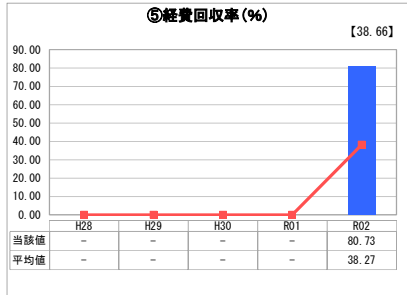
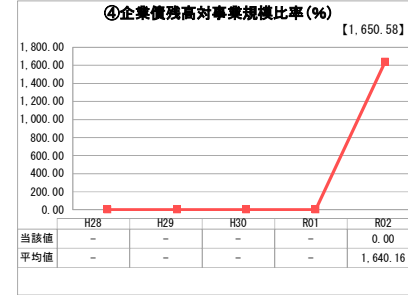
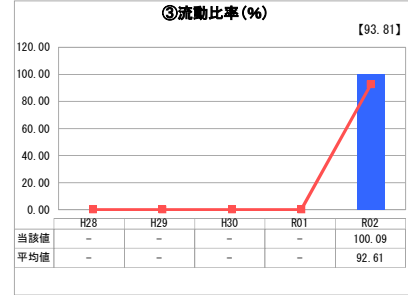
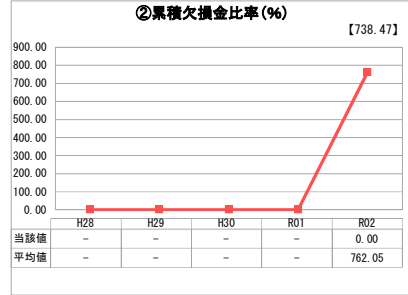
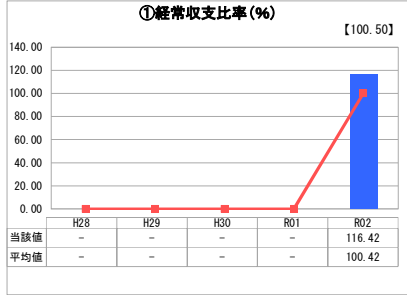
兵庫県 相生市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	小規模集合排水処理	I2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	19.38	0.13	100.00	2,922

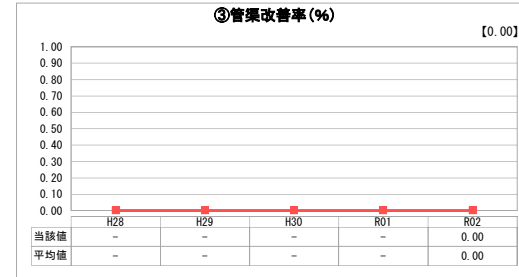
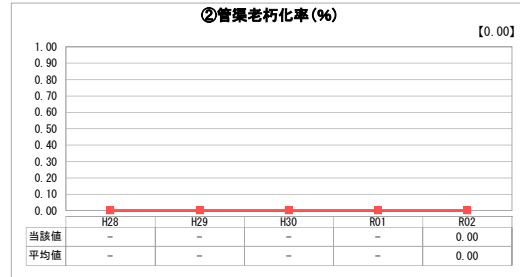
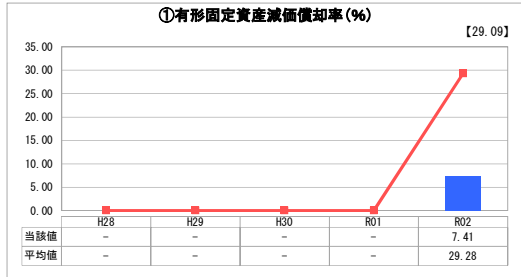
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
28,804	90.40	318.63
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
36	0.01	3,600.00

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

1. 経営の健全性・効率性について
 【経常損益】
 経常収支比率は、100%を上回っているが、更なる収支改善を図る。

【料金水準の適切性】
 経費回収率は、類似団体平均値を上回っているが、今後は、人口減少による使用料収入の低下、施設の老朽化に伴う長寿命化工事や統合を進めるため、定期的に適正な料金水準を検証していくことが必要である。

【費用の効率性】
 汚水処理原価は、類似団体平均値を下回っているが、今後は施設老朽化による修繕等の経費が増加し、人口減少により汚水処理原価は、増加していくことが予想される。

【施設の効率性】
 水洗化率は、100%となっており、目標を達成している。

2. 老朽化の状況について

【施設全体の減価償却の状況】
 【管渠の経年化の状況】
 【管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況】
 平成12年に供用開始された事業であり、耐用年数を経過した管渠はない。
 現時点では適切な維持管理を行うことで施設の延命化に努めながら、施設更新に向けて検討し、計画的な更新を実施していく。

全体総括

今後、人口減少による使用料収入の減少や施設更新に伴う支出の増といった要因により、経営状況は徐々に厳しくなることが予想される。
 令和2年4月に地方公営企業法を適用し、企業会計方式に移行した。今後は、事業の計画性や透明性の確保、財政状況及び経営状況の透明化・明確化を図り、平成28年度に策定した中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」に沿って計画的で合理的な事業運営を図り、経営改善に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。